

10.7 全明総裁超集会を圧倒的全共斗の隊列で
毎晩徹せよ、

大統一全共斗を再編強化せよ！
一明大バーバード死守戦を安保、沖縄斗争の
突破口へ！

第三次全共斗Mを安保沖縄斗争として明確に位置付ける。
東大、日本、京大亡命と与われてきた全共斗Mは、現在的にはその争争の質を政治斗争へと深化させなければならぬし、任へを万願である。正に明大斗争が全口全共斗の最先原に立つてその路向を発展・深化しなければ、我々、斗争主体の意識性が正に社会全体すべての領域から発生していくのを見てもわかるように、斗争の質はたゞとて明大斗争からへったとしても、常に全体と他の関係を見られねばならぬ。1.4に於る大衆は6.15当時の本衆の質と何ら変わらない。そつて大衆に対して現在的な全共斗Mへの実的往互を譲ることなく、併列する園内にその意識性を籠小化しきつむことは、併列明治に於る斗争の敗北を讀うと同時に、全口全共斗Mの隊列を十日へ向けて、再構築するといふのが今日的課題すべく放棄することになる。

我が歩調は現在の至る所を経階である。1.4の大衆動員をみて勝利だと、堅はずみにわくわくしながら文部通り明大10日決戦を徹底して斗争あくべき全共斗の隊列をいま再構築し、確固とした然る全共斗を勝ちとめにとり、がむかにモ廻しない想い地下指導部を編成しよがねばならない。我ながらロッタやアートがいつ行かれるのは、肉體ではない。むしろロッタやアート、ペーパード死守戦を何層なる形で位置付けるか、が問題である。1.18.19 東大死守戦から京大を立て行なれたペーパード死守戦とは明確にその政治的意義を異にしている。即ち明大に於るペーパード死守戦は、國家権力統体との複雑な戦いの中で、なげられる所のえり通り安保沖縄斗争としての全口全共斗の第一歩の武装斗争として位置付けなければならぬ。

全曲の戦う学生諸君、私の戦うは、おまかに反撃と再編する時に来る。

今や、併列斗争と政治斗争の質はよりと繋列し、政治領域にある社会主体の意識性を断固潔白の中に生へしことおながくればならない。

くにかえして言わ。我々の全共斗Mは、彼らはおらと、安保沖縄斗争勝利を身手スローガンに掲げる」といふ立場をもと、権力統体に向土で再度強化しようではなしが。